

企業はなぜ生まれたのか？

1 序 論

社会及び経済活動において企業は普遍的な存在であり、その価値は、と問われれば図り切れないものである。その企業がなぜ生まれたのかを明確にする。

2 本 文

(1) 企業の定義

営利を目的として、継続的に生産・販売・サービスなどの経済活動を営む組織体。また、その事業。資本主義経済のもとでは、ふつう、私企業をさす。※1

また企業は社会的組織であり、共通の目的に向けた一人ひとりの人間の活動を組織化するための道具である。人間活動を組織化するための道具たる企業。その意味するところは、企業の本質は社会的存在だということである。※2

(2) 企業設立の歴史的経緯

最古の現存企業は日本にあり、飛鳥時代の578年、聖徳太子が四天王寺を建てるために百濟から招いた宮大工・金剛重光によって創業された金剛組で、専門職人集団として雇われた。※3

この飛鳥時代前の弥生時代において、水稻農耕を主とした生産経済の時代である。この時代においては開墾や用水の管理などに大規模な労働力が必要とされるようになり集団の大型化が進行し、くにが生まれた。ただ企業は存在しなかった。そして飛鳥時代に企業の一つが創業された。飛鳥時代においては国の基盤が整備され、分業化が進んだ。その中において個人での利益を追求する商人が表れ、そして組織で利益を追求する人々が表れた。社会においてそのような人々を養えるための環境が作られ、また米、絹、布といった物品貨幣等が、企業活動を容易にした。政府での徴用ではなく、民間での組織として活躍する場が与えられ、またその活躍により、人々はその益を受けるようになった。

(3) 社会規模拡大に伴う分業の効率性の追求の結果

個人の利益を追求する際に、組織として組むことの効率性が良いと認められる社会環境が整った時、企業が生まれた。また、分業化における社会的組織単位として、家族、村、宗教団体、政府等があり、その中で、共通の目的を持ち、かつ営利を目的とする唯一の社会的組織が企業である。

3 結 論

企業は社会規模拡大に伴い、より豊かな生活を得るために。その分業制の効率性を追求した結果、まさに自然発生的に出現した社会的組織である。これはもはや社会の維持・発展に必要な不可欠なものである。

引用 ※1 デジタル大辞泉HP「企業」

※2 企業とは何か P.F.ドラッカー著 上田惇生訳 p20

※3 Wikipedia HP「金剛組」

日本固有の存在と言われる総合商社はなぜ日本に生まれたのか

1 序 論

商社世界ランキング 2016 年※1 において、現在 7 社と言われる日本の総合商社がすべてトップテンに入っており、しかも、上位 6 社を独占している。日本の総合商社は、「ラーメンから航空機まで」といった言葉で表わされるように、幅広い商品の輸出入を担当し、大きく発展を遂げ、世界から注目される存在である。なぜ、このような商社が誕生したのかを明らかにする。

2 本 文

(1) 総合商社の定義

各種の商品を多角的に取り扱っている大規模卸売業者。特定の商品を重点的に取り扱っている専門商社と区別して呼ばれる。外国にはあまり例がないが、日本ではメーカーが直接販売部門を持たないことなどの特殊な事情で発達した。三井物産、三菱商事などが総合商社の代表的なものであるが、これらの商社は取り扱う商品の多角化だけでなく、事業も多角化し、また買付けや販売地域も世界各国にわたっている。※2

(2) 歴史的経緯

戦前の日本の経済は産業構造が繊維産業などの軽工業中心であり、しかも後れた農業や中小企業などの部分と近代的大工業との二重構造が存在しており、それぞれの間を流通過程から結びつける商社の役割が重要であった。また明治初期の商館貿易から脱却し、外国貿易を開拓する役割においても、これらの商社の果たした機能はきわめて重要であり、いわば日本経済の後進的特殊性が広範多彩な総合商社機能を必要としたのであった。三菱商事を一例に挙げると、1873年に三菱商会として発足した。

戦後においては、鉄鋼、機械、化学製品の輸出及び工業原材料、原燃料などの輸入業務に多くの商社が進出し、総合商社化していった。総合商社の多彩な活動や、日本の輸出増加につながったとの評価する声が少なくない。※3

(3) 分 析

日本は明治維新以降、富国強兵のもとに国策を進めたが、自国の内需不足、資源不足は必然的に他国へ製品を輸出し、資源を輸入し、富を得なければならなかった。しかしながら、西洋に比べ、後進国としての成り立ち、また言葉の壁、海を越えた外国市場への参入は、非常に大きなハードルを要した。これに対応するために、エリート及び所要を満たす経済力を擁した貿易会社が必要になった。この貿易会社が日本と海外との輸出入を一手に引き受けることによって、**効率的かつ効果的な海外取引が可能**になった。また日本国民が勤勉で、多くの輸出できる製品を作ることができたため、商社は一層に拡大した。

3 結 論

日本が後進国という歴史的背景、また多くの製品を作れるという国民性が、今日の日本独自の総合商社を作った。

引用 ※1 Forbes, The World's Biggest Public Companies, 2016

※2 ブリタニカ国際大百科事典 HP 「総合商社」

※3 日本大百科全書の解説HP 「総合商社」